

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：82503

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K20084

研究課題名（和文）千葉県と茨城県における安産祈願と動物供養の民俗学的研究：犬供養・猫供養に着目して

研究課題名（英文）A Folklore Study of Prayers for Safe Childbirth and Animal Memorial Services in Chiba and Ibaraki Prefectures: Focusing on Dog and Cat Memorial Services

研究代表者

渡瀬 綾乃（WATASE, Ayano）

千葉県立中央博物館・その他部局等・研究員（移行）

研究者番号：10967376

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000 円

研究成果の概要（和文）：文献調査のなかで、動物の供養に付される習俗の特徴を捉え、過去の民俗調査と現在の自身の民俗調査を補完する資料を得ることができた。現地調査では、犬供養猫供養の講解散後の推移や、動物供養以外の安産祈願を調査した。さらに安産祈願に伴うモノへも着目し、動物以外に地藏尊、不動尊、仁王といった幅広い対象があることを把握した。加えて、犬供養・猫供養を動物供養研究史上の位置づけとともに、寺社信仰との関連性を明らかにする作業を進めた。最終年度には、継続した調査と並行して、学会発表と論文による研究成果の公表をおこない、今後の本研究のさらなる進展の可能性を見出すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、千葉県と茨城県の広域における猫を中心とする動物供養を研究対象にした、安産祈願の動物供養習俗並びに動物供養に関する研究の発展を目的とした産育における動物供養と寺社や宗教者の関連性を考究する民俗学的研究である。同じ安産祈願のための動物供養の犬供養と猫供養の分布の傾向や、各地に残る御詠歌の差異からその信仰の伝播の経過の示唆や、地域の講集団と寺社信仰との関連性を指摘した。また、信仰の母体である講集団の解散後の信仰も明らかにし、文研調査と現地での民俗調査、過去の民俗調査記録から今後の安産祈願と動物供養の可能性を見出した基礎的な研究である。

研究成果の概要（英文）：In the literature survey, I captured the characteristics of the customs attached to animal offerings. I was able to obtain materials that complemented my past and current folklore research. In the field survey, I investigated the transition of animal offerings for safe delivery after the dissolution of animal offerings and other prayers for safe delivery. In addition, I focused on the materials associated with safe delivery prayers. As a result, it was ascertained that there were a wide range of objects other than animals, such as Jizoson, Fudoson, and Niou. In addition, I have been working to clarify the position of dog and cat offerings in the history of animal offering research and their relationship to temple and shrine beliefs. In the final year of the project, in parallel with the research, I presented my findings at a folklore conference and published my research results in a paper. I was able to find the possibility of further development of this research in the future.

研究分野：日本民俗学

キーワード：民俗学 宗教民俗学 動物供養 講 犬供養 猫供養

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

死んだ動物を供養する動物供養は全国各地にある。なかでも東日本の太平洋5県には、人の暮らしに最も身近な犬が、女人講によって供養されている。犬は産育に関わる習俗のなかで安産の象徴とされ、安産にあやかるとともに、集落の境界にザカマタ(写真1)をたてて死んだ犬を供養するのが犬供養である。

千葉県と茨城県の間を流れる利根川下流域の研究蓄積は厚く、犬供養という習俗への理解の基礎となっている。

しかし関東地方型の犬供養研究は茨城県南部と千葉県北部に偏重しており、東北地方型と関東地方型を考察するうえで、両者の結節点になる茨城県北部の研究の希薄さは看過しがたい。茨城県北部では、犬と同様に人の暮らしに寄り添う猫が供養されている。しかし、猫供養は市町村史に事例が記載される程度で、ほとんど検討されていない。

また、犬供養は、女性が組織する講集団(女人講)の習俗だが、近年では女人講が解体されつつあり、コロナ禍でその速度は加速している。地域社会の目まぐるしい変化のなかでこれまでの犬供養研究を補完する研究は、民俗学史の観点において喫緊の課題である。



写真1 茨城県つくば市花室のザカマタ
(2015年3月30日撮影)

2. 研究の目的

本研究では、茨城県と千葉県における犬供養と猫供養の分布と寺社信仰との関連調査から犬供養の関東地方型を再定義する。関東地方型犬供養の特徴として、動物供養と安産祈願が結びついている、寺社信仰と結びついているという2つが挙げられる。

本研究の独自性として、従来の犬供養の供養対象の、犬とその他という二極化からの脱却がある。いままでは犬供養という名称ゆえに供養される動物として犬が着目され、それ以外の動物と安産祈願の関係にはあまり着目されてこなかった。しかし地域によっては猫が同じ目的のもと供養されており、茨城県那珂川以北では犬供養はせずに猫供養を行う地域が出てくる。安産祈願とどの動物の供養とがどこで結節するか。この結節点の指標として茨城県の猫供養を用いるのが本研究の独自性の一つである。

また、近年の動物に関する民俗信仰の動向から、講・動物・神仏の関係を捉えるために、既存の研究で指摘にとどまっていた犬供養と寺社信仰との関係を、民俗と仏教の交渉と習合によって形成される仏教民俗のなかで有機的に位置づける必要がある。

本研究では、犬供養研究で見出した大きく2つの課題(動物供養と安産祈願の結節点、仏教民俗における犬供養の位置づけ)に対して、民俗信仰における動物研究と仏教民俗研究において、両方向にとって最新の知見と相互間の新しい視点を提示することを目的とした。

3. 研究の方法

茨城県、千葉県の犬供養・猫供養の事例を分布の可視化と伝播背景を文献調査と現地調査で明らかにする。犬供養・猫供養については、従来は局所的か、偏重した文献資料からの分布図が提示されてきた。この点を踏まえ、まず基礎情報として市町村史や行政報告書をもとに、茨城県、千葉県の犬供養、猫供養の分布を一定基準の文献資料から明らかにする。つぎに1年目の作業から明らかになった特徴的な地域の重点調査を行う。本研究は広域な分布調査と重点調査を複合し、茨城県と千葉県の犬供養・猫供養を動物供養研究史の中に位置付け、産育における動物供養と寺社信仰の連関性を明らかにする。

4. 研究成果

茨城県常陸大宮市の犬供養と猫供養の分布図の再検討

刊行物や、刊行物の執筆の際に基礎となった過去の民俗調査データの精査、そして自身のフィールドワークにより、重点調査地とした茨城県常陸大宮市における犬供養と猫供養の分布図(図2)の再検討を行った。

学会発表

発表標題「安産祈願と犬猫供養の今 茨城県常陸大宮市を主な事例として」(日本民俗学会第75回年会、2023年)

...学会発表では、調査成果をもとに事例紹介と、女人講の解散後について検討し、先述の調査地の動物供養による安産祈願の犬と猫

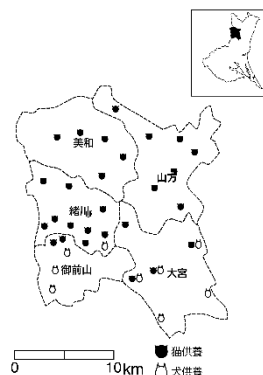


図2 犬供養猫供養の分布図(筆者調査ならびに『美和村史』より作成。地名は旧町村名)

の分布の傾向と、掛け軸や御詠歌からの寺社とのつながりを指摘した。そして解散後の様相として、ザカマタという有形のモノが残ることで追跡調査ができるという点と、講集団の祭祀が個人祭祀に変化している点を述べた。さらに調査地の信仰の様相全体を抑えることで、女人講の解散と集団での神仏への信仰の終焉を安易な等号で結びつけることへの留意を促した。発表では分布の傾向への交易圏による寺社信仰との関わりと地理的環境の違いを私見として述べ、討議を行い、他研究者から今後の本研究の示唆を得た。

雑誌論文

論文標題「石になったザカマタ - 茨城県常陸大宮市の安産祈願と動物供養を事例に - 」

(民具マンスリー56(10)、2024年)

...民具マンスリーでは、木製であったザカマタが石製になった事例と調査地の氏神の小社がワラハウデンから石祠へ変化した事例と比較し、両者の影響の可能性と、大部分のザカマタが石製に変化しなかった点から、今後の課題として木製であることで付与される製作過程への着目の必要性を指摘した。

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1．著者名 渡瀬綾乃	4．巻 56(10)
2．論文標題 石になったザクマタ - 茨城県常陸大宮市の安産祈願と動物供養を事例に -	5．発行年 2024年
3．雑誌名 民具マンスリー	6．最初と最後の頁 1 - 10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1．発表者名 渡瀬綾乃
2．発表標題 安産祈願と犬猫供養の今 茨城県常陸大宮市を主な事例として
3．学会等名 日本民俗学会第75回年会
4．発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------